

平成24年2月

奥山一生 学位論文審査要旨

主 査 竹 内 隆
副主査 佐 藤 建 三
同 林 真 一

主論文

A checkpoint in B-lymphopoiesis related to Notch resistance

(B細胞分化過程において観察されるNotch抵抗性)

(著者：奥山一生、村田暁彦、須藤哲央、吉野三也、林真一)

平成24年 Biochemical and Biophysical Research Communications 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は試験管内Bリンパ球分化誘導法を用いて、Notchリガンド、delta-like 1 (Dl11) がリンパ球分化に及ぼす影響について研究を行い、「なぜBリンパ球分化は胸腺で起こらないのか」について検討したものである。その結果、骨髄内にはDl11による分化抑制効果に抵抗性を持つBリンパ球前駆細胞が存在することを明らかとした。Dl11抵抗性前駆細胞は胸腺には存在せず、この事実が、胸腺でBリンパ球分化が起こらない一因であることが示唆された。本論文の内容は、血液細胞の分化において、造血環境のみならず造血前駆細胞そのものが造血を制御する可能性を示唆し、明らかに学術水準を高めたものと認める。